

第3回「キュレーション公募展 2024」 公募要項

1 概要

「キュレーション公募展 2024」では、キュレーターによる企画案を募集します。選定されたキュレーションは2024年（来年）にギャラリー無量で実施の予定です。

全国でいろいろな展覧会が行われ、記憶の中に留まるものや忘れ去られていくもの、多くの展覧会が消費されていきます。もっともらしい「社会への問いかけ」を自負し、「友・敵理論」を克服すべく、価値観の変革を「新しさ・個性」で武装して企画された展覧会がヨタヨタとよろけている様に見えるのは何故でしょう。現代アートが「コンテンポラリー」を見出せていない様に思われるのは何故でしょう。

そして今、時代の大きな転換期（コロナ禍・ウクライナ侵攻）を迎えている時、根本から展覧会のあり方を再考する場面に立たされているのではないかと思われまます。アートに緩やかな役割があるならば、その役割を再評価し現在の閉塞感やとらわれから抜け出す方法（キュレーション）を見つけ出す、キュレーターが必要です。

ギャラリー無量では2021年、第1回「キュレーション公募展 2020」を実施致しました。コロナ禍の中で1年伸びましたが、選定されたキュレーター松江李穂氏の「A STEP AWAY FROM THEM 一步離れて」です。人や物との距離を置くことが声高に叫ばれた時期だからこそ、一步離れた＝少し距離をおいた、いつもとは違った視点を取り入れることの大切さを強く意識したキュレーションでした。第2回「キュレーション公募展 2023」選定されたキュレーター清水冴氏の「記憶をほどく、編みなおす」も今年10月に行われる予定です。

キュレーターには、自分のキュレーションを実験してみる機会が多いとは言えません。キュレーターが、実際の展覧会の企画から実施までを遂行することで、貴重な体験や新たな可能性を見出すことを願い、本公募を計画しました。古民家を改修したギャラリー無量で、「キュレーションによって展覧会はこうも変わるのだ」と思わせるような、キュレーターの意欲的・実験的なキュレーションを募集します。

2 企画展概要

- ・会期：(予定)2024年10月5日（土）～11月4日（月）の土・日・月
- ・会場：ギャラリー無量

3 審査員・アドバイザー

- ・尺戸智佳子/黒部市美術館学芸員
- ・長谷川新/インディペンデントキュレーター
- ・松江李穂/埼玉県立近代美術館学芸員/キュレーション公募展 2020 選定キュレーター
- ・鷲田めるろ/十和田市現代美術館館長/東京芸術大学大学院准教授

4 募集人数及び企画内容

- (1) 1人（1組）
- (2) キュレーターによるギャラリー無量を活用した意欲的な展覧会企画

- ・ 出展作品のジャンル・形式は自由
- ・ 企画内容
 - ・ 新鮮さやインパクトがある
見たこともないイメージ、体験したことのない感覚刺激等のインパクト
 - ・ メッセージや主張がある
主張、メッセージ、思想が確立している 時代のコンパスになり得ている
 - ・ キュレーションの新しさがある
参加者の想像力を高める工夫がなされている

5 応募資格

- ・ 国籍、年齢、性別、資格の有無(学芸員等)、経験の有無、個人、団体は問わない
※事業に関する会議や打合せはすべて日本語で行います
- ・ 入選した場合、展覧会の準備開催および撤去に至るまで責任をもって遂行できること
- ・ ギャラリー無量との連絡が円滑にとれること

6 事業費

- (1) 展覧会にかかる経費 35万円(諸税を含む)
作品調査・打合せ・展示設営等にかかる交通費・滞在費、資料作成費、出展者謝金、出展作品輸送料、借用料および保険料、印刷物(チラシ・ポスター・図録)デザイン料及び印刷費、図録寄稿文執筆謝金、関連イベント謝金・交通費、記録写真撮影料、会場設営費、展示消耗品費、賃借料など
※すべての経費の執行についてはギャラリー無量で行います
※執行区分がギャラリー無量の部分は、キュレーターが予算化する必要はありません
- (2) キュレーター準備費(展覧会実現のために自由に使える費用)として基本経費の未執行分をギャラリー無量から支給します(用途不問)

7 支援内容

- (1) 展覧会会場としてギャラリー無量の建物、敷地提供
(搬入出期間を含む/その他の会場使用に関しては入選後調整のうえ決定)
- (2) 審査員(アドバイザー)によるアドバイス
- (3) ギャラリー無量による展覧会実現までのサポート(展示作業サポート)
- (4) 広報及および宣伝協力(ギャラリー無量 HP への情報掲載、印刷物送料等)
- (5) 監視スタッフの手配および費用負担

8 印刷物の仕様

本事業に関する印刷物の仕様については原則以下のとおりとします
ただし、事務局と相談の上、予算の範囲内において内容は変更可能とします

印刷物	仕様等
展覧会チラシ (1,500部)	サイズ：A4 用紙：厚紙（上質紙） 90kg カラー：白黒 特殊加工不可 オフセット印刷
展覧会ポスター (30部)	サイズ：B2 用紙：厚紙（上質紙） 110kg カラー：白黒 特殊加工不可 オフセット印刷
展覧会図録 (100部)	サイズ：B5 製本：中綴じ ページ数：16頁（表紙含む）程度 用紙：厚紙（上質紙） 110kg カラー：カラー 特殊加工不可 オフセット印刷

9 応募方法

(1)～(3)の書類を下記送付先まで提出してください

- (1) 応募用紙（指定様式1）
- (2) 企画書（応募用紙とは区別し、下記項目について A4 4枚以内にまとめる）
 - ・展覧会企画趣旨
 - ・出展予定作家・作品案
 - ・出展予定作家の詳細
 - ・会期中の関連事業
- (3) 予算書（指定様式2）

※各応募様式はダウンロードして使用してください

※提出された応募書類は原則返却しません

※宅配便、レターパック、簡易書留等の送付記録が残る方法で送付してください

※封筒に「キュレーション公募2024 応募書類在中」と朱書きしてください

[送付先]

〒932-0315

富山県砺波市庄川町示野 233 番地 ギャラリー無量

Email : muryow@gallery-muryow.com

HP : <https://www.gallery-muryow.com/> 検索「ギャラリー無量 砺波市」

10 応募締切

- ・2023年11月3日(金)必着(持参の場合は11月4日(土)17:00まで)

11 選考方法

- ・2023年11月5日(日)から書類選考・面談選考1組を選定
(11月中旬から11月下旬 応募者全員に郵送にて結果通知)

12 個人情報の取り扱い

本事業取得した個人情報については、個人情報保護法に基づき、厳正に取り扱うこととし、応募者の個人情報は本人の同意なく、主催者および選考委員以外には提供しません

13 関連企画・事前説明会

- ・トークイベント「キュレーションについて」
- ・日時：2023年10月7日(土) 15:00~16:00 ※申込不要
- ・会場：ギャラリー無量
- ・出演：松江李穂/埼玉県立近代美術館学芸員/

キュレーション公募展2020 選定キュレーター

※トークイベント終了後、応募を検討されている方を対象に、会場下見や応募に関する質疑応答を行います(30分程度)

※キュレーター公募にあたり、事前説明会への参加は必須条件ではありません

※説明会の折には、第2回「キュレーション公募展2023」キュレーター清水冴氏の「記憶をほどく、編みなおす」が行われています。

- ・開催期間 2023/10/7(土) - 11/6(月) 期間中 土・日・月曜日のみ開廊
- ・開廊時間 10:00-12:00 13:00-17:00 鑑賞料 500円
- ・キュレーション 清水冴
- ・アーティスト 石田愛莉、中森あかね、ジョイス・ラム、O33、富山妙子(特別出品)
- ・展示概要

「記憶をほどく、編みなおす」は、東アジアにルーツを持つ現代美術作家たちが、富山県・砺波市の散居村風景に佇む日本家屋を舞台にそれぞれの幼少期の記憶や経験をひもとき、語りなおすことで、社会の周縁の物語を人びとに想像させる。

出品作家の石田愛莉(2000-)は、家族の古着、糸や布を用い、祖母から教えてもらった手編みによって、個人的な記憶や経験が集積的記憶から取りこぼされ、忘却されることに抵抗する作品を手掛けてきた。近代女性の家庭内の労働・趣味であった手芸は、1970年代のフェミニスト・アートをはじめ、社会的に抑圧された人びとのアイデンティティや、社会構造を批判する手法として扱われてきた。タイトルの通り、本展は「手芸」というモチーフからインスピレーションを得て、展覧会全体がさまざまな物語の交差するパッチワークをイメージしている。また、中森あかね(1962-)は、幼少期に父を自死で失い、2021年に自助グループを仲間と共に立ち上げ、自死遺族のわかちあいの場所をつくり、2022年より、死者とその死にまつわる人びとの尊厳をテーマに制作を始めた。返還前の香港に生まれたジョイス・ラム(1989-)は、家族とともにカナダへ移住し、中国返還後に香港へ戻るといふ幼少期を過ごした。自身の家族の歴史に基づき、近代の家族制度や「ホーム」という概念を多面的に考察し、そこに浮かび上がる矛盾や、包摂と排除のメカニズムを捉える作品を手掛けてきた。O33(OU SanSan, 1993-)は、中国・内モンゴルで生まれ育ったエスニック・マイノリティとしてのアイデンティティをテーマに、モンゴル民族を象徴する五畜の一つ、羊の腸を素材として制作している。この世界に存在するさまざまな「境界」-生と死、自己と他者、マジョリティとマイノリティの曖昧さ、儚さを視覚化してきた。富山妙子(1921-2021)は、神戸に生まれ、幼少期を家族とともに占領下の旧満州であるハルビンと大連で過ごした。占領下の人びとを目の当たりにし、日本人としての葛藤を抱えながら、生涯に渡って戦争の苦しみを描いてきた。今回は、2021年に99歳で逝去された富山妙子の遺族と関係者の全面的な協力を得て、出品に至った。

芸術には、自己とは異なる「他者」の記憶や経験を想像させる力がある。すべての人びとが人間としての尊厳を持って生きてくために、私たちに「他者」の言葉にならない違和感、不安、悲しみや痛みを想像する力が必要だ。本展に訪れた人びとが、作品のなかに、自己と響き合う「何か」を見つけことができれば幸いである。清水 冴(キュレーター)

関連行事

- ・「アーティスト・トーク」2023年10月7日(土) 13:00—15:00
- ・「読書会」2023年10月21日(土) 10:30—12:00
- ・「喪失のダイアログ」2023年10月28日(土) 14:00—15:30
- ・「クロージング・トーク」2023年11月4日(土) 17:00—18:00

14 応募から選考までのスケジュール

2023年08月01日(火)	応募開始
2023年10月07日(土)	事前説明会
2023年11月03日(金)	応募締め切り
2023年11月05日(日)	審査(書類選考) (面談)
2023年11月中旬	審査結果通知

15 事業実施のスケジュール

2023年11月下旬～	(予定)数回の企画会議
2024年08月中旬	DM・ポスターデータ作成・発送
2024年09月下旬	展示設営
2024年10月05日(土)	(予定)「キュレーション公募展2024」open
2024年10月05日(土)	(予定)関連事業(トークイベントなど)
2024年11月下旬	展示搬出
2025年1月下旬	記録集作成

16 問い合わせ先

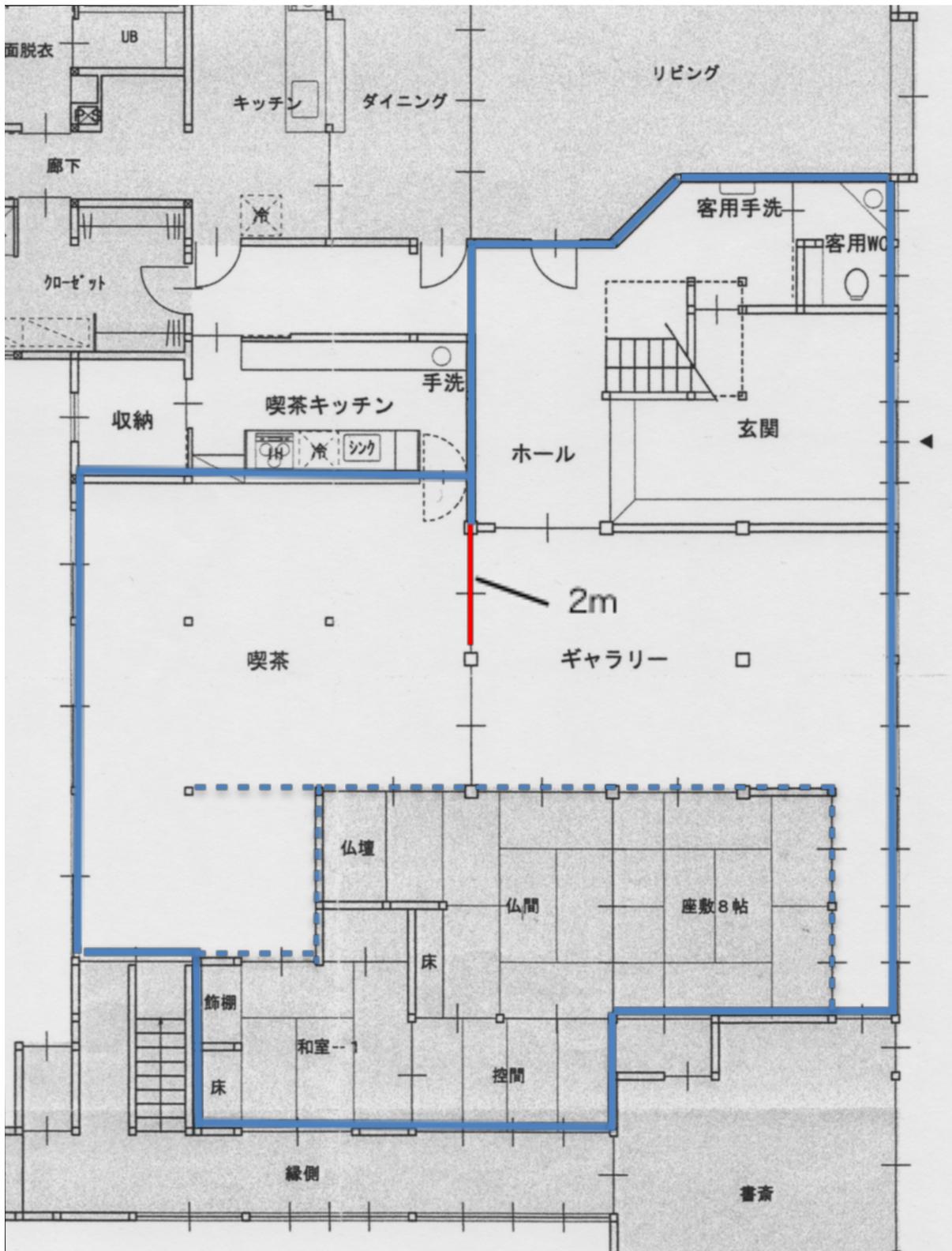
〒932-0315 富山県砺波市庄川町示野 233 番地

☎0763-82-2214

Email: muryow@gallery-muryow.com

HP: <https://www.galleru-muryow.com/> 検索「ギャラリー無量 砺波市」

※ギャラリー無量平面図



※パネル設置ができます。(パネルを設置するとほぼ暗室)

※展示台・黒 300×300×900mm 15台

・黒 450×450×900mm 8台

・黒 600×600×600mm 1台

・黒 200×450×1800mm 4台

※スポットライト 広角 20台 狭角 20台

※展示ワイヤー1.5m 12kg対応 50本 ※展示フック 10個 展示コンセント 10

「キュレーション公募 2024」応募用紙(様式 1)

<p>キュレーション公募 2024 応募用紙</p>	<p>受付番号 (事務局記載)</p>
<p>ふりがな</p>	<p>生年月日 年 月 日</p>
<p>キュレーターの氏名 団体名</p>	
<p>ふりがな</p>	<p>TEL</p>
<p>団体の場合 代表者名</p>	<p>FAX</p>
<p>ふりがな</p>	<p>E-mail</p>
<p>住所 〒</p>	
<p>プロフィール・これまでの活動など</p>	
<p>展覧会タイトル (仮でも可)</p>	
<p>企画の概要</p>	
<p>出展作家(作品)案</p>	<p>関連イベント事業案</p>
<p>* 詳細は応募用紙とは別に企画書及び予算書をつけてください</p>	

「キュレーション公募 2024」企画書（様式自由 A4 4枚以内）

応募者名：

- ・ 展覧会企画趣旨
- ・ 出展予定作家・作品案
- ・ 出展予定作家の詳細
- ・ 会期中の関連イベント事業案